



初夏の大磯港

議会だより

第160号

2011年（平成23年）7月27日発行

大磯

6月定例会（5月27日～6月3日）

- 自治基本条例を可決…………… 2
- 補正予算 マリア道土地購入費など可決 …… 3
- 町政のここが聞きたい 一般質問 …… 4～7
- 議会報告会…………… 8
- 議員報酬等検討特別委員会報告…………… 9
- 政務調査費収支報告…………… 10

6月定例会

6月定例会は5月27日から6月3日の8日間開催した。

住民参加で3年かけて条例案を練ってきた大磯町自治基本条例が
全会一致で可決され、9月に施行される。

補正予算は修正案が提出されたが、否決された。

大磯町の憲法

自治基本条例を可決

自分たちの町のことは自分たちで責任を持つ、自分たちで決めていくという地域主権型社会の実現に向け、町民が主体となった自治推進のため、基本理念や自治体運営の基本原則を定める新規条例の議案が提出された。

付託された総務建設常任委員会及び本会議において採決の結果、全員賛成で可決した。

主な質疑

問 11条には、「子どもは、まちづくりに参加する」とあるが、具体的にはどのような参画を指しているのか。

答 昨年は子ども議会を開催したり、第四次総合計画の策定時に子どもの意見を聞く場を設けた。今後子どもが参加し、意見を言える機会を多くつくっていきたい。

問 今回の策定において、大磯町らしい特色はどの部分に表現されているか。

答 子どもが参画する権利及び責任、まちづくりの中で町民が目指してほしいものとして「公共の心」を記載したことが大磯の特色だと考えている。さらに、「危機管理」の条文を盛り込んだことは、大磯独自のものだと考えている。

問 今回の策定において、パブリックコメントを反映した部分はどこか。

答 議会と議員の責務について、既に制定済みの議会基本条例と整合性を図った。また、会議の公開において「正当な理由のない限り」という表現を削除し、わかりにくい表現は、解説の部分に説明文を補足した。

問 19条には、「町民自治の実現」とあるが、具体的にどのようなものか。

答 すべての町民が責任を持って町の自治に参画しながら、応分の責任を分担し、まちづくりを進めていくというものである。

賛成討論

・行政も議会もそれぞれの責任を持ちつつ、大きな予算を必要とする際には、住民の意見を広く聞く必要があると考える。

・理念としてはよい条文であるので、町民の信頼を得るためにも、運用の仕方について期待をする。

・条文の中に大磯らしいものを見出し、入れてあり、大磯町の自治の最高規範となっている。

・今後は、パブリックコメント等いろいろな意見が出たときに、町民の立場ではどうなのか、「町で決めた」ではなく、再度見直すとか、運用面において柔軟な対応を検討してほしい。

教育長の給与50%カット

問 町長公約の実現のため、教育長の給与等の支給額を50%カットするもの。4年間で約1千800万円の削減となる。

答 町長公約実現のための予算に充当することを教育長は了承している。

問 町長に教育予算への充当を期待するが。

答 それも含め、公約全体を視野にする。

問 教育長の考えは。

答 次年度予算要求の際は、町長や学校の先生等と話し合いながら、進めていきたい。

全員賛成で可決

育児休業 任期付職員も取得可能に

現在該当者はいないが、1年以上継続して在職し、子の1歳の誕生日以降も引き続き在職する見込みがあるなど、要件を満たした任期付職員が、育児休業等を取得することができるようにするもの。

国保条例の一部改正 専決処分を承認

出産育児一時金の支給額が、平成23年3月31日までの暫定措置として42万円となっていたものを恒久化するもの。

審議会などをあらたに 町の附属機関に位置づけ

専門的判断を求め、各界の意見を広く聴くために設置している「町行政改革推進委員会」と「町消防審議会」を町の附属機関として位置づけるもの。

補正
予算

マリリア道（国府本郷西小磯1号線）

土地購入費など可決

6月補正予算の総額はおよそ1億5千840万円。

主な内容は、防災対策関連で2千300万円、マリリア道の土地購入費・移転補償費・設計等委託料など1億3千200万円であった。

主な質疑

―マリリア道―

問 なぜ幅9.5メートルにこだわるのか。

答 1日1千500台を計画。道路構造令で9.5メートルとなっている。

問 マリリア道は国際学園が全部整備すると報道されていたが。

答 国際学園の負担については、もう少し時間をいただきたい。

問 道拡幅の建設費はいくらかかるのか。

答 2億2千万円ほどだが、設計の中で金額は変わってくる。

―防災対策―

問 防災設備の消耗品の内容は何か。

答 アルファ米7千650食、毛布2千850枚、ベットのボトルの飲料水2千780リットル分、オムツなど日用品やガソリン缶等を整備する。

問 防災行政無線が聞き取れない地域への対応はされるのか。

答 テストを基に、修繕をしていきたい。

修正案は否決

マリリア道予算を削除する

マリリア道は、計画部分のすべての整備となると、10億円はかかる。防災対策費がもつと必要ときに、道路予算の計上は必要ないとした修正案は、否決された。

賛成少数で否決

賛成多数で可決

防災対策費 2,300万円	
防災マップ等作成委託（15,000枚）	280万円
町内24地区への防災資機材補助費	500万円
アルファ米、毛布など備蓄品購入費	835万円
防災行政無線などの修繕料	82万円
海拔表示板の作成委託料（100枚）	40万円
MCA無線利用料等（54台分）	141万円
被災地への職員派遣旅費	88万円
消防車両（バイク1台）購入費	23万円

賛否結果

議案番号	議案	議員名（議席順）											結果	
		山口陽一	清水弘子	三澤龍夫	鈴木京子	百瀬恵美子	奥津勝子	高橋英俊	浅輪いつ子	竹内恵美子	坂田よう子	土橋秀雄		鈴木修
6月定例会	30 専決処分の承認を求めることについて	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	承認
	31 大磯町自治基本条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	32 大磯町附属機関の設置に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	33 大磯町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	34 大磯町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	35 議案第35号平成23年度大磯町一般会計補正予算（第1号）に対する修正案	○	○	●	○	●	●	●	○	●	●	●	●	否決
	平成23年度大磯町一般会計補正予算（第1号）	●	●	○	●	○	○	○	●	○	○	○	可決	
36 神奈川県市町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体の数の増加及び規約の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決	

○は賛成 ●は反対

町政のここが聞きたい

一般質問

一般質問は、6月1・2日に11人の議員から29問ありました。
質問と答弁の内容を要約してお知らせします。
詳細は会議録・ホームページ・DVD（図書館貸出）をご利用ください。

【文責は本人】

浅輪
いつ子

安全安心のまちづくりのため
まちづくり条例見直しを

答 現在の不備は正す

問 安全安心のまちづくりのためまちづくり条例見直しを。開発構想や近隣住民への周知に関して条例の理念には町・町民等及び事業者の相互の信頼・理解及び協力の下とあるが条文はそれを表していないが。

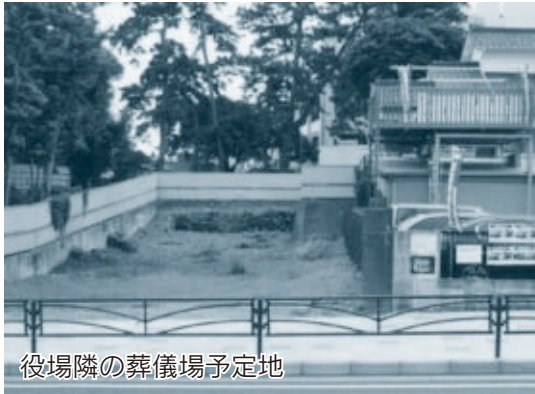
町長 現在の不備は正す。

問 公園、緑地、広場の整備を金銭をもって提供することについては。

町長 金銭でなく緑を残してほしい。ベンチを造り木を植える。その方向で条例を変えていきたい。

問 近隣住民の範囲について例えば30メートルと決めた根拠は。

都市計画課長 明確な根拠は説明しづらいが、本町は事業者にとって厳しいものになっていると考える。



役場隣の葬儀場予定地

問 大規模建築物の敷地と道路との関係は。

町長 延床面積が千㎡を超えるその敷地の接道要件について平成22年9月6日に実効性のある規則とした。

問 葬儀場建築に関する条例の制定は。

町長 町には何もない。今回役場隣の計画に対して約5千名近い方の署名をいただいた。今後条例・要綱など町独自のものを作りたい。

清水
弘子

鳴立庵西側の葬儀場建設
計画の白紙撤回を求めるが

答 話し合いで解決が良い

問 5月24日、鳴立庵西側の葬儀場建設計画反対署名4千549名が提出された。3月議会でも町長は「解決の糸口を話し合いで見つけたい、努力する。」と回答されたが、その後、事業者と交渉されたか、その内容は。

町長 反対の住民の方から葬儀場建設を白紙に求める要望が町に提出された。業者からは4回目の説明会を予定していると聞いた。町は公正、中立な立場であらねばならず、現在、直接交渉するに至っていない。

問 この計画は町長の政治的決断をする時期に来ている。私たちはこの計画に一貫して反対してきた。大磯町の土地開発公社でも予算化している。町長の決断を。

町長 今、買収という言葉が出されたが、業者からの買収の申し出があった時には答を用意しておくことは必要であり、準備をしておくということも一つの選択だと考える。皆様が行われていることは尊重されなければならぬが、話し合いで解決するのが良いと考える。

万台こゆるぎの森の保証料

問 万台こゆるぎの森の保証料は支払われたか。

町長 国際学園と、一刻も早く1億8千万円を納めてもらうため、5回話し合った。人工芝サッカー場の検査は、観覧席は解体、撤去の予定。擁壁部分は工事が完了後、県の検査を受ける。生活排水は浄化槽で処理し、雨水と道路側溝に。井戸水で保健所の証明書あり。

問 国際学園が契約を履行しないなら、白紙に戻し災害時の町民の避難所として活用するのが良いと思うが。

財政課長 現在のところ、白紙撤回は考えていない。

土橋 秀雄

六所神社南側JR地下道の 安全施設設置の対応は

答 平成24年度設置準備

問 日吉跨線橋と六所神社の地下道に安全施設設置と何年も前から言っているが、

日吉跨線橋に安全設備を設置されたが、地元の要望が強い六所神社から国道に向かうJRをくぐるトンネルには現在まで対応がされていない。日吉跨線橋と六所神社、どの様なことで設置基準が決まってきたのか。

町長 今年度、六所神社南側地下道については、道路を利用して地域の皆さんや周辺の大形店舗利用者のご意見をお聞きし、六所神社南側に適した安全施設

の設置を検討し、平成24年度、安全施設の設置工事に向けて準備していく。急速に増える交通量に対して、どの様な警報装置をつけるか、対向車注意の警報装置をつけるかは今後早急に検討していきたい。

国府中テニスコート補修は

問 国府中学校スタンド及びテニスコートの補修は早急な対応が必要と思われるが、スタンドの補修とテニスコートの補修も先送りとなった。町の今後の考え方は。

町長 スポーツ振興、健全な体力づくりということで、いずれの場所においてもスポーツは必要。テニスは両中学において非常に盛んであり、益々それを進めていく必要がある。

教育長 テニスコートは優先順位というか、保護者の意見を聞きながら、十分優先順位を考えたが、調整を図りやって行きたい。

その他の質問

子育て支援総合センター周辺道路の今後の道路計画は

百瀬 恵美子

文化・芸術振興策の拡充を

答 審議会をつくり図っていく

問 豊かさを育むために、文化・芸術振興策の更なる拡大が必要である。積極的に展開し、町独自の基本指針の作成を問う。

町長 H25年度から生涯学習推進計画の改定作業によって、文化活動の支援、文化財の保全の伝統を受け継ぐことを念頭に取り組み、振興策の継続や育成を図っていききたい。

問 芸術家・団体を登録しアーティスト・バンク制度の整備は。

教育長 町の生涯学習人材登録制度を発足させ、様々な分野で知識や経験がある講師や指導者を募集し、広く紹介している。町民の方が文化芸術活動を行う際に広く活用されている。

問 子どもたちが豊かな心を育むため、多種多様な文化体験プログラムの充実は。

教育長 従来の講座に加え

て青少年向けの体験講座を増やした。次世代を担う子どもたちの創造体験の支援に努めている。



あいさつのできる町は

問 あいさつのできる町は

町長 みずから実践し、あいさつの大切さを皆さんと共に町に浸透したい。

問 あいさつのできる町は

教育長 大変いいことだと思う。検討する。

山口 陽一

マリア道（西小磯1号線） 拡幅をなぜ急ぐのか

答 町の計画した事業である

問 マリア道も将来は整備が必要と思っているが、災害対策として公共施設の耐震化が進んでいない中で、なぜ急ぐのか。万台こゆるぎの森を国際学園に貸すときに、町が「道路が狭いかどうか」という質問に、国際学園は「道路整備は国際学園がします」と言っているが、これは本当か。

政策課長 国際学園とのやりとりの中で、「道路整備はやっていく」と確かに答えている。

問 マリア道は町道なので、町が主体となって整備することになるが、整備費用4億円の半分の「2億円は国際学園が負担してくれ」となぜ言えないのか。

政策課長 道路整備費がいくらになるか金額が決まっていないので、決まった時点で協力してもらえると

思っている。ただ口約束で

なく、書面での覚書を結びたいと考えている。

問 1日に300台程度しか通らない道路なのに、なぜ9.5mに拡幅するのか。6mもあれば十分だ。当初、町が道路計画を立てた時には、「万台こゆるぎの森」を「町民憩いの森」として、いろいろな施設をつくりたい。そのための道路計画だった。

町長は災害時に運動公園に避難するための道路だと

言っているが、運動公園に避難するための道路はある。大地震の後、国や各自治体では防災対策を重点に、事業計画を見直している。卓話集会で、もう一度町民の意見を聞く、町の防災対策がある程度どがつくまで、この道路予算を執行することは停止してほしい。

町長 執行停止せず、この道路事業は続けていく。

鈴木 修

町民の不安に町は何を優先するのか

答 公助として備蓄品等の充実

問 東日本大震災並びに福島第一原発の爆発による放射能被害を目的の当たりしに、県西部の茶葉から高い放射線量が計測され、大磯町民の不安は最高潮に達している。行政が今何を考え、何を優先的に行っているのか。町長として大磯町では何をすぐに着手すべきかの考えを問う。

町長 卓話集会の方針を変え、災害について地域の皆さんと共にお話をし、地域特有の皆さんの危険意識にお答えし、その思いを啓発し、私達も協力していく。町が公助として出来ることは何か。備蓄品倉庫をどこに作るのか。毛布の枚数、数日間の生命を維持し得る食料と水分についてである。また、本庁舎が機能不全に陥ったことを想定し、情報の収集、発信を一元化できる指令所を安全な場所に設置出来るか。これはやらなければならない。ありと

問 自助、公助、共助と言われる、我が地域の防災対策を認識し、準備をして行う必要があるが、災害時要援護者への対応は。

町長 高齢者、障害者、在宅療養者は、19年度に登録を始め、現在まで985名、区長、民生委員、消防団に。情報の把握、共有、又避難のシミュレーションは、24地区に出向き、その地区独自のコミュニティを再確認し、お願いする。向こう三軒両隣、そういった形で安否、助け合いで、多くの力を得ねばならない。

問 訓練を6月に実施予定。小磯幼稚園は、園庭で約20m。現状では幼稚園にとどまる状況によって城山公園方面の避難も考えている。

町長 無練を活用し、地域等の被害状況の見回りをし、消防の必要性を痛感した。高年齢者、障害者への要援護者対策は。

奥津 勝子

災害に強い町づくりを問う

答 地区独自のコミュニティを

問 自助、公助、共助と言われる、我が地域の防災対策を認識し、準備をして行う必要があるが、災害時要援護者への対応は。

町長 高齢者、障害者、在宅療養者は、19年度に登録を始め、現在まで985名、区長、民生委員、消防団に。情報の把握、共有、又避難のシミュレーションは、24地区に出向き、その地区独自のコミュニティを再確認し、お願いする。向こう三軒両隣、そういった形で安否、助け合いで、多くの力を得ねばならない。

問 訓練を6月に実施予定。小磯幼稚園は、園庭で約20m。現状では幼稚園にとどまる状況によって城山公園方面の避難も考えている。

町長 無練を活用し、地域等の被害状況の見回りをし、消防の必要性を痛感した。高年齢者、障害者への要援護者対策は。

竹内 恵美子

災害本部となる役場庁舎は 大丈夫か

答 第2庁舎を考えている

問 自助、公助、共助と言われる、我が地域の防災対策を認識し、準備をして行う必要があるが、災害時要援護者への対応は。

町長 高齢者、障害者、在宅療養者は、19年度に登録を始め、現在まで985名、区長、民生委員、消防団に。情報の把握、共有、又避難のシミュレーションは、24地区に出向き、その地区独自のコミュニティを再確認し、お願いする。向こう三軒両隣、そういった形で安否、助け合いで、多くの力を得ねばならない。

問 訓練を6月に実施予定。小磯幼稚園は、園庭で約20m。現状では幼稚園にとどまる状況によって城山公園方面の避難も考えている。

町長 無練を活用し、地域等の被害状況の見回りをし、消防の必要性を痛感した。高年齢者、障害者への要援護者対策は。

その他の質問

①幼・小・中の生活関連情報
の共有、連携について
②建設予定の葬儀場について

問

大磯幼稚園と小学校は合同

訓練を6月に実施予定。小磯幼稚園は、園庭で約20m。現状では幼稚園にとどまる状況によって城山公園方面の避難も考えている。

災害本部となる役場庁舎は大丈夫か。

無練を活用し、地域等の被害状況の見回りをし、消防の必要性を痛感した。

お問い合わせ先

坂田 よう子

未曾有の大震災の教訓と 対策を問う

答 防災対策の強化を図る

問 3月11日に起こった大震災は史上最大の規模となり、地震と津波による被害は甚大であった。更に、未だかつて体験したことのない原発事故の恐怖は、自然の驚異の前で人類の英知が如何に未熟であったか痛感させられた。

議 議会は、災害救済に町を挙げ物心両面での支援を全町民に呼掛けると共に、一日も早い復興を支援する決議を即時行った。

町 町としての未曾有の大震災がもたらした教訓とその対策は。また、緊急防災対策事業費の増設を如何に行うか。

町長 想定外の津波災害、更に、原発事故による放射能汚染と様々な状況が続いている。この大震災の教訓を全職員で真剣に受け止め、町の緊急防災対策の様々な見直しと強化を図る。6月補正予算では、海拔表示板

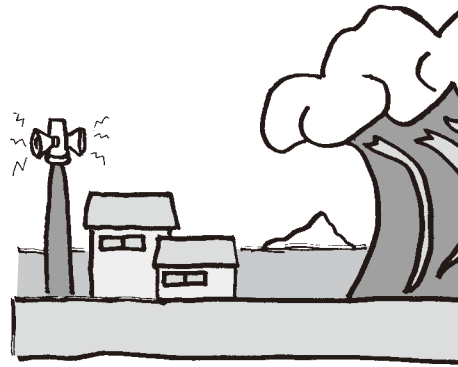
等、緊急に実施する事業を優先したが、今後は、各地区の卓話集会での意見、要望を参考に随時対応に努める。

問 救済・復興支援を国・県と連帯し、如何に行うか。
町長 義援金、約2千437万円を赤十字へ送付。被災地へ消防職員、保健師、医幹一般職員を派遣し支援を行っている。



被災地で活躍する職員

防災関連質問



三澤 龍夫

津波に対する防災は

答 町、地域、住民一体で対処

問 地震、津波に対して行政に必要なのは、皆さん一緒に生き抜きましょう、一緒に頑張りましょうということと、地域で取り組んで行くこと、家庭で考えなければならぬこと、行政の限界を明確に示さなければならぬ。

答 災害時要援護者と言われる方々をどうするのか地域で話し合ったが、結局向こう三軒両隣に任せるしかない。

いとなった。自助、共助、公助の考えを防災対策の基本にすべきだ。

町長 地震は大磯を巻き込んで周辺に行く。他からの助けというものは余り期待できない。町の人たちが一緒にになり、隣近所、向こう三軒両隣、町も努力するが自助、共助の考えをふくらませていきたい。

町 町、地域、住民一体で対処していく。

鈴木 京子

大津波警報に対する 町の対応は適切だったか

答 今後は基準を整備していく

問 東日本大震災の3月11日の津波に対する町の対応は適切だったか。

町長 大津波警報発令と同時に、大磯港周辺の防潮堤門扉の閉鎖と、地域にいる方の避難を完了した。

避難所を8カ所開設し、防災行政無線で繰り返し周知した。

問 無線をずっと聞いていたが、避難所開設は気が付かなかつた。いつ放送したのか。

危機管理対策室長 20時20分だった。

問 相模湾には3メートルの津波が到達すると想定されていた。葛川河口の川尻広場は2.2メートル、花水川に注ぐ三沢川河口付近の東町の道路は2.7メートルしかない。

町長 もし、想定どおりの津波がきていたら、浸水していた可能性が大いにある。

隣の平塚市では避難勧告が出された。私たち町民はほとんど知らなかつたが、情報をキャッチした場合、なぜ大磯町は出さないのか、大丈夫かと不安が広がるだろう。

今後の対策をしっかりと立てるべきではないか。
危機管理対策室長 3メートルの津波ということで避難勧告は出さなかつたが、中丸や東町には低地地区もあるため、避難勧告や避難指示の基準を整備していきたい。

問 放射能汚染への不安がある。町では町民からの陳情を受け測定を始めたが、まだ不十分だ。要望に応えるか。

町長 応えていく。

第2回議会報告会を開催

地方分権の時代を迎え、議会の役割は重大である。開かれた議会、町民の声を反映できる議会をめざし、議会基本条例に基づき、2年目の議会報告会を開催し、2時間にもわたり活発な意見交換を行った。

60名以上の参加で活発な意見交換をした。アンケートも43名あり、主な感想意見は「今後もこの会を発展させて欲しい」「町の将来像の討論を」など建設的な意見が多かった。



議会報告会（保健センター）

予算に対する 主な質問と回答

問 健康相談事業「おあしす24」は医師会へ十分な相談がなく不備がみられる。議会でどんな計画案が審議されたのか。

答 詳しくは会議録を見ていただきたいが、医師を1千100万円で雇用することと、町の保健師・栄養士が健康相談にのるという内容だった。計画案の全体像や医師会との協議など審議できなかった。早速医師会など関係者と協議することを町長に要請していく。

問 一般会計予算、前年度より8.9%増の理由は何か。

答 月京住宅建替事業など普通建設費の増などだ。総額3億3千300万円は新たな事業ではなく、数年前からの継続で、設計も今年整い工事着工になったので、今年の前算計上になった。

問 個人町民税が前年度より6千700万円減の理由は。

答 景気低迷による町民の給与所得が減収したことと、定年退職者が増え年金受給者が増え高齢化が進んだことなどの理由である。

議員報酬に対する 主な質問と回答

問 委員会の議論はいつまでに決めるのか。

答 6月定例会の最終日の6月3日迄に決めたい。

問 議員定数の検討はされたのか。

答 平成19年に18名から4名減らしているため、現在は議題の対象になっていない。

問 検討に外部の意見を入れるべきではないか。

答 まず議員活動とは何かを明確にしてから、報酬の高低について皆さんの意見を聞き、検討していく。

問 議員にもっとしっかり働いてもらいたい。費用対効果でしっかり働いた

ら報酬もつと高くても良いと思うが。

答 町政をチェックしていくには、もっと勉強と努力が必要である。議員活動をチェックしてほしい。

問 地方分権時代の今は、他との比較ではなく住民代表のプロとして議員の活動をしてほしいが。

答 議会の存在感が問われている。議員の質のレベルアップと議会活動の充実を図る努力していきたい。

その他の 主な質問・意見

- 防災対策を地域ごとに分かりやすく示すべきだ。
 - 放射能汚染が不安だ。町が主体的に実態の公表を。
 - 大磯の良さを活かした観光立町を。葬儀場も含めて考えてほしい。
 - マリア道はもっと検討を。
- 以上の意見は、町側に改善等を要望した。

議員報酬等検討特別委員会

審査報告

議員報酬等検討特別委員会は、地方分権時代を迎え、

議会が担う役割と責任はこれまで以上に重要なものとなっており、議員の活動領域とその対価である「議員報酬等のあり方」について審査するために、平成22年11月16日の臨時会において設置し、7回検討を重ねてきた。

審査の内容

議員活動を4つの領域に分類し、活動状況の調査・確認を行った。当初、議員の活動量をもとに議員報酬を算出する方法、県内の他町村議会議員の報酬と比較する方法、町民の声の町政への反映状況で議員報酬額を説明する方法などの方式による試算を考えたが、町民の意見を踏まえた上で結論を出すこととし、5月14日及び15日に議会報告会を

開催し、町民へ説明を行った。

議会報告会では、報酬額引き下げに関する意見もあったが、専門的知識を生かして活動する議員はそれなりの処遇があってもよいのではないかという意見が多かった。

結論

本委員会では、「報酬」と「政務調査費」の2点について、その考え方と方針をまとめることとした。

月額報酬は、現状の額を維持した中で、議会報告会の開催日数、通年議会等の検討を進め、町民参加の推進による職務活動領域の拡大を図ることとした。また、期末手当の支給率は、町職員との支給率を参考として検討することとした。

政務調査費は、会議や委員会の活動経費と議員の調査研究経費をあわせ、現在1名あたり年額18万円を支給している。

今後は、委員会活動の充実を図るため、6万円を委員会活動経費として、先進地の調査や政策形成に関する研修等にあてることとする。また、12万円は政務調査費として、議員の調査研究経費に活用するとの結論を得た。

議員報酬等検討特別委員会

- 委員長 山口陽一
- 副委員長 坂田よう子
- 委員 鈴木京子
- 百瀬恵美子
- 奥津勝子
- 土橋秀雄

議会報告会 アンケート集計結果

主な意見		
今後もこの会を発展させてほしい		15名
町の将来像を描き、参加者と討論を		3名
若者の参加が増える工夫を		2名
司会者のコントロールが弱い		2名
議員は行動に責任を持つべき		1名
歳入の議論をしてほしい		1名
町を良くしていく議論をしたい		1名
町民と共に解決に向け協働を		1名
資料の棒読みはどうか		1名
テーマを決めたのは良かった		1名

日	参加者	回答者
5月14日(土)	32名(32名)	26名(9名)
5月15日(日)	28名(15名)	17名(8名)
合計	60名(47名)	43名(17名)

感想	回答者
良かった	19名(6名)
普通	15名(6名)
良くない	2名(3名)
無回答	7名(2名)

()は昨年回数

要望
日曜議会を開いてほしい
自然環境を活かした観光事業をしてほしい

地方議会議員年金制度が廃止

平成23年6月1日に地方議会議員の年金制度が廃止となった。

平成22年度 政務調査費の収支報告

(単位：円)

議員氏名	交付額	支 出 額					収支差引額 (返還額)	主な支出内容	
		①調査旅費 及び研修費	②資料作成 及び購入費	③広報費	④事務費	⑤その他の 経費			支出計
浅輪いつ子	180,000	27,030	90,811				117,841	62,159	①旅費(芦屋市)ほか ②新聞購読料ほか
奥津 勝子	180,000	68,405	78,088	38,563			185,056	0	①旅費(登別市ほか) ②新聞・雑誌購読料ほか ③消耗品費
坂田よう子	180,000		10,000	152,671			162,671	17,329	②資料購入費 ③広報紙発行費
柴崎 茂	180,000	38,424	59,180	281,999			379,603	0	①旅費(二戸市ほか)ほか ②雑誌購読料ほか ③広報紙発行費
清水 弘子	180,000	103,196	88,226				191,422	0	①旅費(会津若松市ほ か)ほか ②新聞・雑誌 購読料ほか
鈴木 修	60,000		7,350				7,350	52,650	②書籍購入費
鈴木 京子	180,000		90,570	84,000			174,570	5,430	②新聞・雑誌購読料ほか ③広報紙発行費
高橋 英俊	180,000	29,416	2,250				31,666	148,334	①旅費(いわき市、会津 若松市)ほか ②書籍購 入代
竹内恵美子	180,000		8,270	184,489			192,759	0	②雑誌購読料ほか ③広報紙発行費
土橋 秀雄	180,000		60,530	63,052	5,433		129,015	50,985	②新聞購読料、議事録代 ほか ③インク代ほか ④消耗品費
三澤 龍夫	180,000	29,416					29,416	150,584	①旅費(いわき市、会津 若松市)ほか
百瀬恵美子	180,000	114,195	74,789				188,984	0	①旅費(登別市ほか)ほ か ②新聞・雑誌購読料 ほか
山口 陽一	180,000	13,010	46,812	107,101			166,923	13,077	①旅費(横浜市ほか) ②資料購入代 ③広報紙発行費
山田 喜一	180,000	24,226	87,546	43,720	7,140	1,000	163,632	16,368	①旅費(いわき市、会津 若松市)ほか ②新聞・ 雑誌購読料ほか ③議会 報告、議会日誌ほか ④ 事務消耗品 ⑤広域議員 懇話会会費
渡辺 順子	180,000	29,260	19,840			5,000	54,100	125,900	①旅費(芦屋市)ほか ②雑誌購読料ほか ⑤法律相談料

掲載は50音順です。詳細は役場1階情報コーナーにあります。

ごみ処理広域化検討特別委員会 審査報告

ごみ処理広域化検討特別委員会は、平塚市と進めているごみ処理広域化について審査するために、平成21年7月24日の臨時会において設置し、平成23年6月3日までに11回検討を重ねてきた。

審査の内容

平塚市と進めているごみ処理広域化について、一般廃棄物処理に係る事務事業の効率化や環境負荷の低減、ごみ処理経費の削減等が図られるように求めるものだった。

現在、計画している厨芥類資源化施設は、公平な施設分担の観点から、大磯町で平成26年度から2カ年をかけて整備を行い、平成28年度の稼働を目指すことになっている。

結論

二宮町が、再度ブロックに加入することを前提とし

て策定する「1市2町ごみ処理広域化実施計画」及び「循環型社会形成推進地域計画」については、大磯町に配置予定の施設（厨芥類と一般可燃ごみの機械分別方式）等と、1市2町における適正な施設配置、規模、処理方式及び施設運営について継続した検討を行うべきであるとした。

また、ごみの排出抑制策について早急に対応することが必要との結論を得た。

ごみ処理広域化検討特別委員会

委員長 清水弘子
副委員長 浅輪いつ子
委員 鈴木京子
高橋英俊
鈴木修
柴崎茂

(平成22年11月23日まで)

渡辺順子
(平成22年9月30日まで)

あなたの要望はこうなりました

詳細はホームページで閲覧できます

採択となった陳情

◆大磯町内の放射性物質調査に関する陳情

陳情者は、宮崎淳子氏ほか58名。

内容は、大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の爆発により、大気中に放出され続けている放射性物質が様々な場所で検出されていることを受け、大磯町内の保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校の敷地をはじめ、農地、住宅地、市街地などで放射性物質の調査、放射線量の測定および、町内産の農産物の放射線量の測定をし、その結果すべての公表を求めるもの。

趣旨採択となった陳情

◆健康相談事業「おあしす24」についての陳情

陳情者は、山田真一氏、脇和雄氏。

意見として、独自の調査・測定が必要である。町民の不安を取り除くよう情報公開など全力を尽くして欲しい等があった。

意見として、検討会をオープンにしてやって欲しい。医師会から出された疑問を晴らし、町民が納得できる事業にすることが必要である等があった。



放射性物質調査（大磯小学校）

陳情・請願

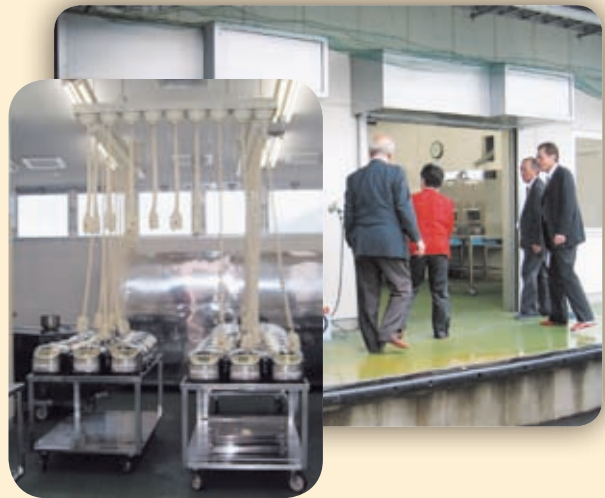
町政などへ意見や要望があるときは、誰でも陳情書や請願書（議員の紹介が必要）を議会に提出することができます。詳しくは議会事務局にお問い合わせください。61-4100（内線281）

提出の締め切り
(9月定例会分)
8月19日

議会スナップ



5月11日 福祉文教常任委員会
デマンド型乗合タクシーについて視察
(滋賀県守山市)



5月12日 福祉文教常任委員会
学校給食についての視察(滋賀県竜王町)



7月3日 海開き



7月5日 (勲吉田茂国際基金への感謝状贈呈式)



議会を傍聴しませんか？

大磯町議会では、本会議、委員会、協議会、すべての会議がだれでも傍聴できます。

会議開催日、大磯町役場4階の議会事務局で受付をしています。受付の際、傍聴券をお渡しします。

編集後記

東北被災地の一日も早い復興をお祈りしています。現編集委員会最後の議会だよりとなりました。この2年間、議会への町民参加を目指し、議会の会議を公開し、論議内容や採決結果を議会だよりで紹介しましたが、いかがでしたでしょうか。

町の重要な施策を議会で決定する現実から、議会が町民の意見を反映していくために、議員と町民の対話が必要です。議会だよりや議会・議員活動にご意見をお寄せください。次の編集委員会に読みやすい議会だより発行を引き継いでいきます。

議会だより編集委員

副議長	委員	副委員長	委員長
山田陽一	坂田喜一	竹内恵美子	奥津勝子
山田喜一	坂田喜一	百瀬恵美子	三澤龍夫
山田喜一	坂田喜一	鈴木京子	